ボランティアスピリットの継承のために

水難救済思想の普及活動レポート

特定非営利活動法人　長崎県水難救済会による高島海水浴場での「海の安全教室」の模様

海の安全教室

平成13年度から平成28年度までは、全国の小中学校等で児童・生徒を対象に、「若者の水難救済ボランティア教室」を開催し、講師の海上保安官やライフセーバーの皆さんから海での事故を防ぐための知識のほか、万一、自分や友達等が海で遭難した時に助かる術と安全に助ける術を実地に手ほどきを受けていました。

平成29年度からは、名称を「海の安全教室」と変更し、対象を子供たちだけでなく、教師や保護者をはじめ、地元一般市民にまで拡大するとともに、指導内容も見直したうえで引き続き全国各地で展開しています。

公益社団法人 北海道海難防止・水難救済センター

真駒内リトルシニア球団の中学生がAEDを使用した心肺蘇生法を体験

平成31年３月２日、札幌市南区所在の真駒内リトルシニア球団の室内練習場において、「海の安全教室」を開催しました。

教室には、リトルシニア球団の中学生41名と保護者10名が参加し、北海道海難防止・水難救済センターの職員３名が講師となり、AEDを使用した心肺蘇生法についての講義等を行いました。

同リトルシニア球団は、昨年も「海の安全教室」を開催しており、２、３年生は再受講となったが、今回、心肺蘇生法技術の向上が大いに見られました。

また、今回、初めて受講する１年生は楽しみながらも真剣に取り組んでいました。

AEDの使い方やダミー人形を使用した心肺蘇生法体験

富山県水難救済会

商船学科の生徒が救命講習を受講

令和元年６月12日、富山高等専門学校において、「海の安全教室」を開催しました。

伏木海上保安部と新湊消防署から講師７名を招き、商船学科の３年生40名が参加して、「海の安全ハンドブック」により、離岸流や海の危険生物、救命処置法のほか、低体温症の生理的症状についての講義やダミー人形を利用した救命方法について学びました。

心臓マッサージを習得

「海の安全教室」で講義に聞き入る学生

消防署員による救命講習の様子

特定非営利活動法人 神奈川県水難救済会

中学生が海保職員やライフセーバーの指導を受け心臓マッサージを体験

令和元年６月25日、平塚市立太洋中学校において「海の安全教室」を開催しました。

教室では湘南海上保安署職員２名と地元ライフセーバー８名を講師に招き、２年生125名がグループに分かれて、心臓マッサージやAEDによる心肺蘇生法を体験するとともに、最後に、講師から水辺の事故防止や海水浴シーズンに役立つお話をしていただきました。

ライフセーバーによる安全講習

湘南海上保安署職員によるAED使用法の説明

ダミー人形を利用した心臓マッサージ

特定非営利活動法人 長崎県水難救済会

巡視船の船上において海の安全教室を開催

平成30年11月17日、長崎海上保安部巡視船でじま船上において、長崎県水難救済会４名と長崎海上保安部20名の講師により、小学生29名と保護者19名を対象に「海の安全教室」を開催しました。

教室では、安全講習のほか「海の安全ハンドブック」を使った講習会では離岸流や危険な海洋生物、心肺蘇生法など救命処置法を学んだほか、巡視船でじま船内見学や海猿による潜水用具装着訓練と救助訓練展示が行われました。

「海の安全ハンドブック」による講習

ダミー人形を使用して心臓マッサージを体験

心肺蘇生法を学びました

長崎市沖の高島にて小中学生が海での安全講習会に参加

救助方法等の習得

令和元年７月14日、長崎市長崎港の南西洋上に浮かぶ高島の高島海水浴場において、一般社団法人長崎青年協会が主催する青少年事業への協力要請により、「海の安全教室」を開催しました。

教室には、長崎海上保安部職員２名を講師に招き、長崎近郊の小中学生42名が参加し、「海の危険な生きもの」や「海での危険な事・救助の方法」等について講習を受けました。

また、海水浴場では実際に「浮いて待て」等を体験し、受講した子供たちは、講習を通じて学んだ事を各自、家に帰って復習することを約束していました。

「浮いて待て」の実践講習

ペットボトルを使用した救助方法の習得

マリンレスキューレポート Part 1 救難所NEWS

海難救助訓練ほか

平成30年度は、全国の水難救済会において延べ208の救難所・支所から3,426名の救難所員が参加して実地訓練などが行われました。

京都府水難救済会舞鶴救難所と海上保安部等関係機関との合同訓練の模様

■京都府水難救済会

◆官・民合同の海難対応訓練を実施

平成31年４月17日、京都府舞鶴市の舞鶴港西港第三埠頭東側海域において、ゴールデンウィーク・夏季シーズンにおける海難対応に備え、関係機関との連携強化及び救助能力の向上を目的として、舞鶴海上保安部、警察署と舞鶴救難所との合同により、平成31年度官・民合同海難対応訓練が実施されました。

訓練では、舞鶴海上保安部巡視艇、警察署警備艇及び舞鶴救難所から救助船（第二大西丸）１隻と救難所員７名が参加し、機関故障したプレジャーボートの曳航訓練及び転覆したミニボートの乗組員２名が海中に落水したとの想定により漂流者の救助訓練が行われ、海難発生時の初動対応の重要性についても確認しました。

機関故障船の曳航訓練

転覆したミニボートの漂流者救助訓練

■公益社団法人琉球水難救済会

◆レスキューチューブ、レスキューボード、水上バイクによる救助訓練

令和元年５月11日、日本最南端の有人島、沖縄県八重山郡竹富町波照間島のニシ浜地先海面において、夏場の観光シーズンを前に同日に新設されたばかりの波照間救難所の救難所員５名のほか、駐在所警察官、診療所医師、地元関係者が参加して、救難所員実地訓練を行いました。訓練では、NPO法人沖縄ウォーターパトロールシステム理事長の音野太志氏を迎え、レスキューチューブ、レスキューボード、水上バイクによる救助手法を体験しました。

本格的な救助訓練を学ぶのは殆んどの救助員が初めてでしたが、この島で海難死亡事故をなくそうとの気概に燃えて実地訓練に挑みました。４時間の訓練で２回の休憩をとったものの、「足が痙攣しそうになった。こんな厳しい訓練とは思わなかった。」との声もあったが、真剣な取組みで脱落者もなく訓練を終了し、本格的な夏場の観光シーズンを目の前に救難所員は新たな知識・技能を身につけることができました。

水上バイクとライフスレッドによる救助訓練

レスキューチューブを利用した救助方法

◆中北部地区９救難所による水上バイク等の合同訓練

令和元年６月11日、沖縄県恩納村所在のタイガービーチ救難所の地先海面において、ニライビーチ救難所など９つの救難所から救難所員20名が参加して救難所員合同訓練を行いました。

雨天の中、午前中はホテルモントレ沖縄スパ＆リゾート（タイガービーチ救難所所在）の会議室を利用して、NPO法人沖縄ウォーターパトロールシステム理事長を迎え、リスクマネジメントの基礎知識についての講義をはじめ応急手当法を取得したのち、午後には海上で水上バイクとライフスレッドによる救助訓練を行いました。

NPO法人沖縄ウォーターパトロールシステム音野理事長によるリスクマネジメント講座

水上バイクとライフスレッドによる救助訓練

三角巾を使用した応急手当の体験

■公益社団法人 福岡県水難救済会

◆遭難者捜索用通信機器を利用した行方不明者捜索訓練

令和元年５月24日、福岡湾において、唐泊救難所の救難所員９名が参加して、海上行方不明者捜索にあたり、救助率の向上と関係機関との連携を図るため、福岡海上保安部と合同で捜索救助訓練を行いました。

訓練は、「一人乗りのプレジャーボートが無人で発見され、乗船者は行方不明であり、各機関が海上捜索にあたっている。」との想定で行われました。

また、「遭難者は救命胴衣を着用し、「捜索用通信機器」を携行しているとのことから、福岡市消防局消防航空隊に対し、上空からの捜索を依頼するとともに、福岡海上保安部巡視艇及び水難救済会の救助船が連携して海上捜索を実施する。」という内容であり、救難所員は巡視艇と連携して救助船で海上捜索訓練を実施し、今後も海上保安庁との連携を深めていく必要性があることを痛感した訓練となりました。

訓練に参加した唐泊救難所員

行方不明者の捜索訓練

巡視艇との連携による海上捜索

■特定非営利法人 神奈川県水難救済会

◆水中津波対策及び避難誘導歩道確認訓練

令和元年５月29日、小田原市所在の根府川ダイビングセンターにおいて、西神奈川広域救難所の救難所員９名が参加し、「水中津波対策及び避難誘導歩道確認訓練」を行いました。

訓練は、災害時にダイバー及び一般人に対し、避難誘導等を迅速に行えるように、潜水中のダイバーへの連絡方法、水中マイクの使用方法及び注意事項について救難所員に周知することを目的として、避難経路や避難時間を確認し、水中のダイバーに対する水中スピーカーを使用した災害発生の連絡訓練であり、今後の対応検討に意義あるものになりました。

水中スピーカーを使用した連絡

訓練に参加した救助員

避難経路の確認

水難救助等活動報告

平成31年１月から令和元年６月末までに報告のあった、主な水難救助活動の事例を紹介します。

① 海に流された釣り人を捜索救助

三重県水難救済会　紀南地区海難救助連絡協議会
甫母須野支所、二木島支所、遊木浦支所

平成31年４月19日午前５時30分頃、熊野市甫母町楯ヶ埼付近で釣りをしていた男性１名が陸岸より転落し、海に流されたとの118番通報を受けた尾鷲海上保安部は、直ちに紀南地区海難救助連絡協議会に救助要請を行った。

これを受けた紀南地区海難救助連絡協議会は、甫母須野支所、二木島支所及び遊木浦支所に出動を指示、同支所から救助員13名及び協力者1名が所属の救助船長栄丸（14.7トン）ほか９隻にそれぞれ分乗し、午前７時15分から同30分にかけて現場へ向け出港、約10分後にそれぞれ現場海域の捜索を開始。午前９時頃、熊野市楯ヶ埼沖合い海上にて救命胴衣着用の男性を二木島支所所属救助船「しんちゃんまる」（3.6トン）が発見、救助員２名及び協力者１名が一致協力して船内に収容後、巡視艇みえかぜに引き継ぎ救助を完了した。

捜索救助中の巡視艇と二木島支所所属救助船しんちゃんまる

海中転落者を発見した救助船しんちゃんまる

② 定置網に乗揚げたヨット乗組員を救助

公益社団法人 北海道海難防止・水難救済センター　標津救難所

平成31年４月28日午前３時50分頃、北海道の東部、標津郡標津町沖を航行中の１名乗りヨット（5.5トン）が、沿岸の定置網に乗揚げた。

通報を受けた羅臼海上保安署は、直ちに、所属の巡視艇かわぎりを救助に向かわせるとともに標津救難所に対し、「１名乗船のヨットが定置網に乗揚げ航行不能となっている。」旨、救助要請を行った。

救助要請を受けた標津救難所は、救助員２名乗組みの救助船「はくちょう」（14トン）と救助員２名及び協力者１名乗組みの「第十一五洋丸」（17トン）を出動させ、午前６時54分頃現場着。「第十一五洋丸」に搭載しているクレーンを使用し、午前７時38分頃、当該ヨットを定置網より引き卸し、救助を完了した。

定置網に乗揚げたヨットに接近し、クレーンを使用し引き卸し救助する救助船「第十一五洋丸」

③ 浅瀬に乗揚げたヨットから船長を救助

公益社団法人 福岡県水難救済会　大岳救難所

平成31年４月６日午後２時頃、福岡県東区志賀島付近の浅瀬に３名乗組みのヨットが乗揚げ、横倒しになった。乗組員３名のうち、２名は所属マリーナの船にて救助されたが、船長が留まっており、当該ヨットの傾きが大きくなって危険な状況となったため、午後３時10分頃、福岡海上保安部から出動要請を受け、大岳救難所所属の救助船「おおたけ２」に救難所長ほか救助員２名が乗船し出動。午後３時20分頃、現場着、ヨットの船長を救助した。

なお、船体は、所属マリーナの船により、引き卸し、午後４時50分、救助を完了した。

乗揚げ傾いたヨットから船長を救助し「おおたけ２」に収容

④ オールが折れ、航行不能となったゴムボートと乗組員を救助

山口県水難救済会　床波救難所

令和元年５月７日午後４時８分、宇部海上保安署から「白土海水浴場の沖でオールが折れ帰還困難となった２名乗組みのゴムボートを救助してほしい。」と床波救難所に救助要請があった。

救助要請を受けた床波救難所は、午後４時25分、所属の救助船「漁徳丸」（2.6トン）に救助員２名を乗船させ、床波漁港を出港、午後４時32分、現場着、ゴムボートを発見、乗員２名及びゴムボートを船内に収容し、午後４時45分、床波漁港に入港、救助を完了した。

乗組員２名とゴムボートを救助

船内に収容されたゴムボート

⑤ 燃料切れのプレジャーボートを曳航

千葉県水難救済会　新勝浦市救難所
浜行川支所、興津支所

令和元年６月４日午後５時30分頃、勝浦海上保安署より「浜行川漁港南方沖でプレジャーボートが燃料切れのため航行不能となり救助を求めている。」と新勝浦市救難所に出動要請があった。

出動要請を受けた新勝浦市救難所は、直ちに、浜行川支所長、興津支所長に所員の出動を依頼するとともに、浜行川支所所属救助員所有の救助船「孫一丸」（4.8トン）に出動要請を行うとともに、興津支所救助員所有の「第七沖合丸」に勝浦海上保安署署員を乗船させ出動するよう要請した。

それぞれ要請を受けた救助員は午後５時45分、救助船「孫一丸」に乗船し、直ちに現場へ向け出港。午後５時50分頃、現場着。午後６時15分、「孫一丸」が当該プレジャーボートの曳航を開始し、遅れて出動した「第七沖合丸」が同船に合流、伴走しつつ興津港に入港し、救助を完了した。

プレジャーボートを曳航する救助船「孫一丸」

⑥ 浅瀬に座礁したプレジャーボートを引き出し救助

千葉県水難救済会　富津岬PW救難所

令和元年６月９日午後２時55分、木更津海上保安署より「富津岬先端から第１海堡の間でプレジャーボートが座礁しており、水深が浅くて近寄れないのでパワーボートでの救助をお願いしたい。」旨、救助要請があった。

救助要請を受けた富津岬PW救難所は、直ちに救助員４名乗船の救助船「富津岬をまもる会」（0.35トン）にて出動、午後３時25分現場に到着し、救助船から座礁船にロープを結んだものの、潮が引いていた為しばらく待機。その後、潮が満ちてきたことから、様子を見ながら安全な海域まで引き出し、午後４時50分、救助を完了した。

浅瀬に座礁したプレジャーボート

⑦ 転覆したシーカヤックと転落者を救助

和歌山県水難救済会　紀中救難所

平成31年４月13日午後４時10分、海南海上保安署から「由良港内でシーカヤックが転覆し、海中転落した男性1名が乗艇できずにいることから救助願う。」旨、救助要請が紀中救難所にあった。

救助要請を受けた紀中救難所は、救助員１名乗船の救助船「第５佐知丸」を出動させた。

午後４時15分、付近を航行中の救助船「ふみ丸」に乗船中の救助員が当該シーカヤックから海中転落した男性を救助し、「第５佐知丸」がシーカヤックを曳航し、午後４時30分、柏漁港に入港、救助を完了した。

⑧ 瀬に取り残された男性を救助

特定非営利活動法人 長崎県水難救済会
西海大崎救難所

平成31年３月10日午前９時30分、佐世保海上保安部から「西海市大島町牛ヶ首鼻西方200メートルの瀬に男性１名が取り残されている。」と西海大崎救難所に救助要請があった。

救助要請を受けた西海大崎救難所は、直ちに救助員１名が乗船した救助船「漁協丸」（1.1トン）を出港させ、午前10時10分頃、現場着、取り残されていた男性を船内に収容し、午後０時頃、大島漁港まで搬送し救助を完了した。

⑨ 沖合に流された小型ボートを救助

公益社団法人 琉球水難救済会　羽地救難所

平成31年３月28日午後０時15分、名護海上保安署から「源河沖で釣りをしていた親子２名乗船の小型ボートが沖合に流されている。」との羽地救難所に救助要請があった。

救助要請を受けた羽地救難所は、救助船「マリンブルーⅡ」に救助員２名が乗船し出動した。午後０時55分、当該ボートを発見、「マリンブルーⅡ」に親子２名を移乗させるとともに、当該ボートを同救助船に収容して午後２時頃帰港、救助を完了した。

⑩ 港内で溺れた女性を協力して救助

新潟県水難救済会　新潟救難所

令和元年５月29日午前２時頃、新潟港（西港区）水産２号岸壁港内で出漁前準備をしていた新潟救難所所属の救助員１名が港内で溺れている女性を発見、直ちに、付近にて出漁準備中の僚船の救助船第八金吾丸（29トン）、仙福丸（6.2トン）及びななみ丸（9.7トン）乗船の救助員に大声で知らせた。

救助船「仙福丸」救助員が投光器により港内を照らすとともに、他の救助員は119番通報、救命浮環を投入する等の救助活動を行って、梯子を準備した上で救助員１名が泳いで溺れている女性を救助、他の救助員及び協力者が一致協力して同人を陸上にあげたのち、タオルで保温をしつつ、駆けつけた救急隊に引き継ぎ、救助を完了した。

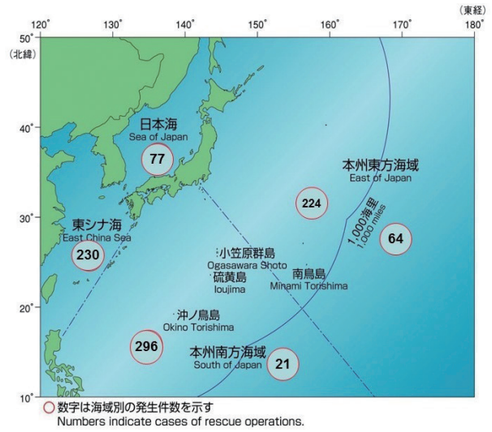
洋上救急活動報告

事業開始以来、令和元年6月30日までに912件の洋上救急事案に対応しています。

洋上救急事業は、全国健康保険協会や各諸団体からの資金援助と医療機関、医師・看護師、海上保安庁や自衛隊の全面的な支援を受けつつ、昭和60年10月の事業開始以来、令和元年6月30日までに912件の事案に対応してきました。

これまでに傷病者945名に対し、医師1,190名、看護師533名が出動し、治療等を行っています。

■洋上救急発生海域図



○総発生件数912件（昭和60年10月１日から令和元年6月30日まで）

航空自衛隊救難ヘリコプターUH-60Jによる台湾漁船乗組員の搬送

令和元年5月22日　21：50発生

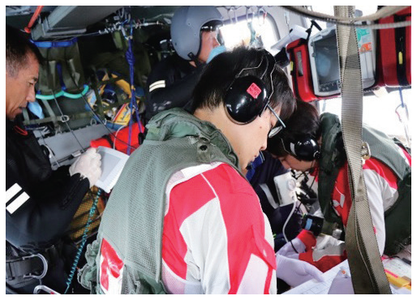
令和元年５月22日午後９時50分頃、「金華山沖南東315海里付近を航行中の台湾船籍まぐろはえ縄漁船の機関長が肝臓の持病により意識が混濁しており、ヘリコプターによる救助を要請する。」との洋上救急の要請が台北駐日経済代表処から第二管海上保安本部運用司令センターにあった。

第二管区海上保安本部は、直ちに宮城海上保安部巡視船「くりこま」を発動させ、また、航空自衛隊に災害派遣要請を実施するとともに、石巻赤十字病院へ医師等の派遣要請を実施した。

石巻赤十字病院から医師等の派遣の承諾が得られ、航空自衛隊への災害派遣要請が受理されたことから、５月24日午前８時14分、医師１名と看護師１名が同乗した航空自衛隊救難ヘリコプターUH-60Jが松島基地を出発。午前９時50分、UH-60Jが該船と会合し、傷病者の吊り上げを開始。同午前10時23分に傷病者を収容し、現場を出発、午後０時９分航空自衛隊松島基地に到着し、午後０時19分、傷病者を救急車へ引き継ぎ、石巻赤十字病院へ搬送した。

【発生位置】　金華山沖南東315海里付近海域
【傷 病 者】　男性56歳（台湾国籍　機関長）
【傷 病 名】　肝硬変、意識障害、貧血、低血糖
【出動医療機関】　石巻赤十字病院（医師1名、看護師1名）
【出動勢力】　航空自衛隊松島基地
救難ヘリコプターUH-60J、救難捜索機U-125A
宮城海上保安部　巡視船くりこま

傷病者の吊上げ作業中の航空自衛隊 救難ヘリコプターUH-60J



ヘリコプター内での傷病者診療状況

救難ヘリコプターUH-60J
（航空自衛隊ホームページより引用）

（写真提供：航空自衛隊）